



二輪草だより

2019年9月号
発行:二輪草センター

センターの活動予定

- ◆10月7日(月) ワークライフバランスを考えよう(医学概論3)
- ◆10月下旬 二輪草だより10月号発行

第23回 夏休みキッズスクール終了報告

2019年7月25・26日の2日間、第23回夏休みキッズスクールを開催しました。初参加8名を含む、総勢24名の子ども達が参加しました。例年と比べて低学年の男子の参加が多く、とても賑やかなキッズスクールとなりました。

第1日目、最初のプログラムは解剖学講座 金本聡自先生の特別授業「からだのしくみと食べ物の旅」です。消化の仕組みについて、食べ物がどういう経路をたどって消化されていくかをスライドを使いクイズを交えながらわかりやすく教えてくださいました。その後、人体模型を使用し各消化器官に実際に触れてみました。医学生が使用するリアルな人体模型に低学年は『怖い…』と少し離れた場所から見ている子もいましたが、中・高学年は興味津々で先生の話聞いていました。

午後はアート傘作りを行いました。見本の傘を見せると子ども達は想像力を膨らませ、次々と絵を描いたりシールで飾り付けをしたり、色とりどりの個性的な世界に一つだけの傘が出来上がりました。

その後は学生ボランティアによる特別授業、「食中毒やノロウイルスについて楽しく学ぼう」と題する劇を通して夏に気をつけるべき細菌やウイルスについて、途中3択クイズを行いながら楽しく学びました。

第2日目はバスに乗って深川にある「まあぶキャンプ場」に行き、パンとアイスクリーム作りを体験しました。6年生はアイスクリームの材料を計り、ゆっくり温めながらなめらかにし、出来たものを機械で混ぜパットに入れて冷やします。他の学年はパンの材料を計り、機械でこねて生地を発酵を行い、次にいよいよ形作りです。パン生地を計量し、丸めたり麺棒で伸ばしたものをロールパンにしたり、低学年の子ども達もだんだんと手つきが職人っぽくなり形のいい生地がたくさん出来ました。焼き上がり待つ間キャンプ場で遊ぶ予定でしたが、この日はあいにくの雨で外では遊べず部屋で宿題をしていると、いい匂いができて焼き立てふわふわパンと牛乳たっぷりの濃厚アイスクリームが出来上がり、待ちに待った昼食です！おかずを挟んで、お腹いっぱい食べ大満足の笑顔でした。

午後からは大学に戻り体育館で体を動かし、汗を流しながら学生ボランティアの皆さんと交流を深めていました。

閉校式で終了証を受け取り、楽しかったキッズスクールは終了しました。最後は子ども達も学生さんも名残惜しそうにお別れしていました。

今回もご協力頂いた各部署の皆様には心よりお礼申し上げます。学生ボランティアの皆さんには暑い中、子ども達と楽しく過ごして下さったことに心から感謝いたします。



【お問い合わせ先】 旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1

TEL: 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX: 0166-69-3249

開設時間: 8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp



訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修終了報告

看護職キャリア支援職場適応支援担当 尾形千悦

この研修は、地域貢献の一環として平成25年から開始し今年度で7年目となります。訪問看護に必要な知識・技術の再学習の支援を目的としています。在宅看護の重要性が高まる中、より重症・重篤な患者さんを在宅で見る機会も増えている現状があります。そこで昨年に引き続き、フィジカルアセスメントを取り上げました。

8月23日、26日の2日間の日程で開催し、17施設から34人の参加申し込みがありました。訪問看護経験年数は平均7年で、5年未満が半数以上を占めていますが、看護師経験は平均約24年と経験豊富な方たちの参加でした。



1日目は、「症状・徴候からのアセスメントⅠ～その症状、経過観察で大丈夫?～」とのテーマで、救急医学講座准教授の岡田基先生の講義でした。在宅医療成功のカギとして心不全・感染症の早期発見・治療と栄養状態の把握・改善が重要であることをご自身の経験とデータから説明がありました。訪問看護の「武器」である血圧計やパルスオキシメーター、聴診器などの活用とアセスメントの視点が理解でき、実践に活用できる知識になりました。

在宅患者の状態悪化を見逃さないためには、起こりうるリスクを見据えた診察と介護力がポイントになります。今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者が常に話し合い、病診連携を行っていくことが大切であることを強調されていました。参加者からは「わかりやすく勉強になった」「今まで行った看護が正しいと再認識できた」「アセスメントの裏付けの自信になった」との声がありました。

2日目は、「症状・徴候からのアセスメントⅡ～症状・主訴から看護につなげる～」とのテーマで急性・重症患者看護専門看護師の酒井周平さんの講義でした。臨床推論・臨床判断の考え方を示され、実践での考え方を理論的に補完していただきました。グループワークでは、提示されたケースでフィジカルアセスメントをもとに、どう判断してケアにつなげるかを話し合いました。短い時間の中でもアセスメントの視点、判断が活かされていたように思います。ケースをもとに話し合うことで、よりイメージしやすく「ケースのような患者さんとのかかわりがあるので、非常に参考になった」という意見も聞かれました。



研修は日常業務が終了してからの時間帯で、遠方から参加された方もいらっしゃいました。研修者の受講の姿勢からも、訪問看護ステーションの皆さんの学習意欲と熱心さには、頭の下がる思いでした。循環器以外のアセスメントについても話を聴きたいという希望もあり今後も期待に応えられる研修を企画していきたいと考えています。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【8月20日～9月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	1回	利用回数	1回
バックアップナース	依頼回数	12回	稼働回数	11回
病児・病後児保育室	依頼回数	17回	利用回数	15回
カウンセリング相談			利用回数	3回

* 病児一時預り室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます